

令和3年度運営委員会議事録

開催日：令和3年12月17日（金）

会議形式：Zoomによるオンライン形式

【第1部】13:00～14:30 広義キク属研究セミナー

「キクの種間交雑と開花生態に関する研究 —43年を振り返って—」

講演：柴田 道夫先生 東京大学・農学生命科学研究科 名誉教授

オンラインで開催した。野生ギクを利用したキクの育種とキクの開花制御メカニズムに関し、長年の研究成果に基づく知見を紹介して頂いた。キク研究者をはじめとして、大学研究者・民間企業研究者など約195名が聴講した。

【第2部】15:00～17:00 NBRP 広義キク属運営委員会

【出席者】敬称略

運営委員：

柴田 道夫（委員長・東京大学）、深井 誠（香川大学）、久松 完（農業・食品産業技術総合研究機構）、増田 優（東海大学）、奥村 義秀（愛知県農業総合試験場）、松田 一彦（近畿大学）、佐藤 豊（国立遺伝学研究所）、中田 政司（富山県中央植物園）、樋口 洋平（東京大学）、中野道治（高知大学）、橋口 正嗣（宮崎大学）、石黒 康平（イノチオ精興園株式会社）、田端 公貴（イノチオ精興園株式会社）

オブザーバー：

辻山 隆（文部科学省ライフサイエンス課）、本間 椋（文部科学省ライフサイエンス課）、鈴木智広（NBRP事務局）、高祖 歩美（NBRP広報室）

課題担当者（広島大学）：

草場 信（代表機関課題管理者）、谷口 研至（分担研究者）、小塚 俊明（分担研究者）、信澤岳（分担研究者）、児玉 透（広島大学事務担当者）、日野 浩恵（広島大学経理担当者）

【報告事項】

1. 令和3年度 業務進捗状況 事業計画書にもとづき報告を行った

① リソースの収集

・当初の計画通りに進んでいる。Gojo-0バックグラウンドでの γ 線照射による変異体選抜を進めており、複数系統の変異体を取得している。今後、再照射による選抜を進めると共に、順次公開していく。

② リソースの保存・バックアップ

・当初の計画通りに進んでいる。DNAリソース（BACクローン）については利用場面が少なくないと考えられるが、ゲノムの物理情報として重要であり、今後もバックアップを行っていく。

③ リソースの提供

- ・提供数については達成確実と考えられる。利用者数についても概ね達成できるのではないかと予想している。

④ 品質確保・高度化

- ・染色体レベル全ゲノム論文の公表が出来た（論文に使われたデータは論文公表前から PlantGarden より公開していた）。複数系統・組織のメタボローム解析が進められており、将来データベースとして公開される見込みである。

⑤ 事業の総合的推進

- ・植物学会等で宣伝活動を行った。全ゲノム論文に関してプレスリリースを行い、日経バイオテク・日本農業新聞等、少なくとも5誌で掲載された。

2. 第4期事後評価報告

- ・事後評価において、本事業は当初計画の目的を概ね達成し、我が国のライフサイエンスの発展に貢献が期待される成果が認められるとの評価を得た。一方、論文数が少ないことも指摘されており、改善を目指すこととした。

3. その他

なし

【審議事項】

1. NBRP 第5期に向けて

- ・研究の方向性:キクタニギクをキクのモデル植物として地位確立を目指す。植物体リソースの他、データ基盤の整備と公開を進める。モデル・リファレンスとしての価値をアピールするためには、成果事例を発表することが重要と考えられる。また、プロトコルの整備を進めていく。
- ・運営体制:助教を採用する。植物リソースのバックアップを段階的に高知大に移行していく。

2. 広義キク属研究 最近の話題

- ・世界におけるキク属ゲノム研究の現状について
 - ・広島大での研究事例
 - ・全ゲノム塩基配列研究から見えてきたもの
 - ・イワインチンの開花特性
 - ・*needle leaf1* 変異体の責任遺伝子について
 - ・栽培ギク形質の遺伝的解析法について
- 等

3. その他

文科省ライフサイエンスからコメントをいただいた。

以上